

[平成18年度 MISA 人材・技術委員会向け資料]

平成18年度実施

新人研修（認定職業訓練）に対する受講者の感想

（受講企業および受講者ヒアリング調査結果報告）

（公開版）

平成18年10月4日

社団法人宮城県情報サービス産業協会 人材・技術委員会

新人研修検討部会

1. ヒアリング結果の全体総括と来年度以降への示唆

全 39 日・助成金適用後受講料 365,000 円

	項目	受講企業の意見等の主要点	運営側総括及び想定される対策
1	全般に関して	<ul style="list-style-type: none"> 全般としての印象は良好であり、特に今年度力を入れたコミュニケーションに関しては、各社とも評価が高かった。 初年度（平成 16 年度）から継続して本訓練を利用している企業では、本訓練を前提とした自社の新人訓練スタイルが確立しつつある。 	<ul style="list-style-type: none"> 交流会の開催、企業混合でのチームなど昨年度ヒアリングでの各社指摘事項を反映した結果、コミュニケーション面では各社期待以上の成果を挙げたといえる。 MISA企業合同訓練は、新人同士の横のつながりの面でも効果が高く、協会事業として果たす役割も大きい。<u>今年度は特に横のつながりの中から鍛えられたヒューマンスキルが結果として期待以上の成果につながった</u>といえる。
2	研修全体の考え方に 関して	<ul style="list-style-type: none"> 即戦力養成ではなく将来に渡るシステムエンジニアの養成コースとしての MISA 研修の思想は概ね受け入れられている。特に継続して利用している企業はこの思想をよく理解し活用している印象であった。 継続企業の高い評価とは反対に、<u>技術系研修に今年度より参加した企業からは技術研修に対する批判的な意見も一部見られた。</u> 	<ul style="list-style-type: none"> 今年度からの参加企業で批判的な意見を持っていた企業にとっては、「<u>チームでの課題演習中心／柔軟性のあるカリキュラム</u>」というよりは、通常の「<u>講義＋実習＋答えあわせ＋理解度テスト・評価</u>」というカリキュラムの方が受け入れやすかったと思われる。 既存企業と新規企業で相反する評価が出た技術系研修に関しては、ポイントをどこに置くのが今後の課題である。 当面は受講申込企業の特徴等を把握しながら「SE 基盤養成」を期待する企業と、「プログラム技術の即戦力」を期待する企業の要望を合わせた形の企画を行い、運営面できめ細かなフォローと工夫も加え対処していきたいと考える。
2	ビジネス 基盤養成	<ul style="list-style-type: none"> 本コースはほぼ確立しているといえる。今年度はディベートなども豊富に取り入れており、概ね良好である。 「<u>提案書の作成実習</u>」「<u>図解</u>」などの取り込み強化が課題。また「情報化企画」の研修は新人には難しすぎるという指摘もあり検討が必要である。 	<ul style="list-style-type: none"> 「情報化企画」の研修では上級 SE 向けの内容を中心に IT 化プロセスの説明、キャリア形成や ITSS、資格試験なども含め豊富な内容が含まれているが、これを必要としない、あるいは新人にはイメージしにくいなどの側面もある（MISA 企業の新人には高度過ぎる）。 要望のあった提案書作成と図解は取り入れたいと考える。ヒアリングで提案のあった大学教授による図解を入れることでも良いが、図解だけで丸 1 日を取ってしまうのもどうかという問題もある。 来年度は「<u>情報化企画</u>」を廃止し、<u>企画提案書・図解・プレゼンテーションの訓練を一体化し、日数を多く割り当てる</u>ことでカリキュラム改変を行いたい。

3	IT 技術基盤	<ul style="list-style-type: none"> ・未経験コースを含めたチーム演習の充実化、中間レビューの導入、ブログでの研修報告など昨年度改善事項の反映は評価されている。 ・本コースのみ利用する企業からは Java / オブジェクト指向も入れて欲しい旨の要望が強い。 ・継続受講企業の高い評価と今年度新規受講企業の批判的評価の乖離を埋める仕掛けが必要。 	<ul style="list-style-type: none"> ・技術的に基盤技術が網羅されていること、チームワークでの演習との両立など基本的なカリキュラムは評価されている。 ・Java の取り込み、新規受講企業の批判的評価に対する対応として、以下の点を検討したい。 <ul style="list-style-type: none"> →本コースは要素技術を網羅した基盤技術養成の役割を強化し、利用要素技術はJava基礎 / Webへ変更し、オブジェクト指向基礎も入れると共にC言語応用とPHPを割愛するカリキュラムも検討する。 (カリキュラムモデル案を2パターン作成し受講実績各社の事前アンケートを実施したい) →研修時間の1時間延長、自主演習のカリキュラムへの取り込み(～17:30までに変更) →到達度テストの導入(課題演習とは別にプログラミングなどの実地テスト) <p>新規受講企業での批判が多かった浅野講師の変更も要検討であるが、MISA 企業からの講師での対応などは困難なこと(17日も研修に専念できる人材は皆無)、UNIXを含めた経験者コースに対して高い評価を持っている企業もあることから、浅野講師のままとし運営面で更に工夫しカバーしたい。</p> <p>補助講師は経費面の関係から対応は難しいが時間延長や運営面でカバーしたい。</p>
4	オブジェクト指向開発	<ul style="list-style-type: none"> ・各社での期待は技術習得よりも「開発手順の体験とそれによる実務や OJT へのスムーズな移行」にあることは明確であり、これは一貫して変わらない。 ・業務プロジェクトの模擬体験としての役割が強く、品質や成果完成度を上げる必要に迫られている。 ・要素技術の研修なのか、模擬体験なのか不明瞭であり、新規受講企業ではこの辺の理解がないまま受講された企業もあった。 	<ul style="list-style-type: none"> ・業務プロジェクトの模擬体験としての役割や期待が強いことから、本研修は要素技術の教育ではなく、PBL(プロジェクトベースドラーニング)的研修を強めることを想定。 ・UMLでの設計、サーバサイド Java などの要素は維持し、これらはカリキュラムの中でしっかり学習できることを第一とする。その上で品質評価やテストも含めた成果物の質的向上を考えたカリキュラムとすることを検討。 <p>(※本コースのみの受講企業に対しては、NAVIS で事前に Java 基礎補講を入れるなど個別対応を行いたい)</p> <p>講師はテクニカルな技術中心の浅野講師ではなく、業務系の上流工程に強く、丁寧フォローアップ型で受講企業評価の高い三苦講師(IT 技術基盤の講師)に変更を行うことで調整したい。</p>

5	運営面での改善提案 (各コース共通)	<ul style="list-style-type: none"> ・ブログ利用による状況報告など各社への報告形態は確立しつつある。 ・ビジネス基盤コースで学習したことを実践する場が技術研修期間中に欲しいという要望もある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ブログを有効活用し、LMS（ラーニングマネジメントシステム）として機能させたい。 ・日直を決め、各社共通の研修報告を事務局ではなく受講生にやってもらうなどビジネス基盤を実践する場も同時につくりたい。
6	他企業との交流	<ul style="list-style-type: none"> ・昨年度までのヒアリングを踏まえて今年度初めて実施した受講者交流会は非常に有効であり、評価も高かった。 ・ 	<ul style="list-style-type: none"> ・フォローアップ研修は今年度 12 月くらいに半日で開催することで、メンバーで検討したい。 ・MISA 研修は来年度で 4 年目になるため、卒業生による講話なども新規に来年度検討したい。
7	来年度想定される課題	<ul style="list-style-type: none"> ・定員の超過 特に人気の高い「ビジネス基盤養成」に関しては、大幅な定員超過の可能性もある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・定員の超過に関しては、第一次募集の状況を見て判断する昨年度形式を今年度も行い、早めに状況を把握できるよう配慮したい。 ・万一定員を大幅に超過する場合には、追加クラスの設定、趣向の異なる別講師でのコース増設なども別途検討する。
8	助成金	<ul style="list-style-type: none"> ・キャリア形成促進助成金の活用 の周知 	<ul style="list-style-type: none"> ・キャリア形成促進助成金は今年度は準備不足から各社に有効活用を呼びかけることができなかった。 ・既に雇用能力開発機構との話も済んでおり、MISAカリキュラムを事前に通知し各社の相談に乗ってもらう体制は整えてある。従って雇用能力開発機構への事前相談を募集時に周知徹底する。 ・認定職業訓練は、受講料は助成対象にならない。 ・人件費に関してはマナー研修 2 日分を除く全コース日程に関して、事業所内総人件費の 3 分の 1 が助成対象となる。中堅社員などの通常の研修のキャリア形成助成金申請（3 月予定）に盛り込む形での申請となるため、既に同助成金を活用している事業所は容易に申請対応が可能である。

2. ヒアリング結果（生データ）

ヒアリング実施体制：

MISA 人材・技術委員会（新人研修検討メンバー）

渡辺（エス・ビー・エス）、佐々木（東北システムズ・サポート）、庄子（NAViS）

MISA 事務局 原田

実施期間：2006年8月29日～9月12日の期間における訪問ヒアリング調査

※対象全14社中、人材・技術委員会メンバー企業や過去に実施している企業の一部を除く7社を訪問

（平成18年度からの新規受講企業と受講人数の多い企業を優先的に抽出）

調査対象：代表・役員クラス、研修担当者クラス、受講者の3者（会社により異なる）

対象企業①

日時：2006年8月29日（火） 10：20～11：00

今年度受講生数：5名（IT技術基盤（未経験者））

出席者：

対象企業：役員1名、研修担当者1名及び受講者2名

MISA：渡辺（エス・ビー・エス）、庄子（NAViS）、原田（事務局）

1. 受講者からの生の感想

- ・ 受講してよかった。同じ業界で働く同期との学習は互いに刺激になる。
- ・ 現在の業務はVB開発であるが、SQLなどは使っており、何よりも開発の進め方、考え方の流れを学習できたことがよかった。
- ・ 専門的な教育は受けていなかったため、他の受講者に比べて知識の差があったが、残って遅くまで演習をやることによって、得意な分野なども出来たと思う。講師（三苦講師）は丁寧で少しずつ（専門的なスキルを）学習できたと思う。
- ・ （使用したテキストについては）手元で継続的に使用している。特に Oracle。
- ・ ゲストセミナーに関しては、（加賀谷氏（人材・技術委員会元副委員長）の）双方向による講義がとてもよく、話も有意義であった。
- ・ 受講生同士の交流や雰囲気もよく、飲み会なども含め相互交流が持てた。

2. 今年度実施訓練の評価に関して（研修担当者）

- ・ 新人研修は足りないところがどこにあるのか、レベルの把握を行うことが重要と思う。研修の中で日報の提出を行っていたが、自己採点を見ると面白い。最初は100点、80%～90%の自己評価だったのが50%～55%と下がってくる。だんだん真剣になってきて

いるのがよくわかり、他のメンバーとも意識がマッチしてきていると読める。

- ・ コミュニケーション面では大変有益な内容となっていると思われるが、カリキュラムに関してはもう少し品質をポツポツと意識し、題材に対して個人個人で品質管理を意識した作り方を印象づけできるとなおよかったと思う。

3. MISA 教育のあり方に関する意見等

- ・ やはり刺激が一番である。自社内ではなく幅広く他社との人的ネットワークを築いて欲しい。
- ・ レベルに差がある中で、教育を通じた習得によって現場のスタートラインに立てることができる。当社では入社前教育として e-ラーニングを行っているが、開発の流れをやりながら意識させることが大切と考えている。
- ・ プログラム開発は全体のシステム開発ライフサイクル、仕事全体の中の一部であるが、全体の中でどこをやっているのか、レベルはどのくらいなのか、などを幅広い視点から意識することは大切であり、その意味で（幅広いテーマを手順を踏んで学習することは）有意義であると考えます。

対象企業②

日 時：2006年9月1日（金） 10：00～11：00

今年度受講生数：2名（「ビジネス基盤養成」、「IT 技術基盤」経験者）

※昨年度もヒアリング済み

出席者：

- ・ 対象企業：研修担当者1名、受講者1名
- ・ MISA：渡辺（エス・ビー・エス）、庄子（NAViS）、原田（事務局）

1. 受講者の生の感想

- ・ ビジネスマナーは会社に入ってから十分使えるもので、勉強になった。
- ・ 訓練の中ではコミュニケーション十分取ることが出来た。
- ・ UNIX は経験がなかった。最初講義のスピードが速いと思ったが、だんだん慣れてきて、慣れてからはまったく問題なくなった。
- ・ 現在の業務では VB.NET を使用しており訓練と直接関係する技術ではないが、C 言語や考え方を訓練で学習でき、実業務の最初の入り口としてよかったと思う。
- ・ 訓練で学習した技術では特に現在でも SQL はよく使っている。SQL 関係の勉強は、通常試験がほとんどであるが、実業務に使える技術を訓練で学習できたと思う。
- ・ 訓練での改善事項として、訓練で使用した（Linux の）CD-R ディスクが半分くらい使えず（訓練の進捗に）支障があったので事前に確認するなど改善願いたい。

2. 今年度実施訓練の評価に関して（研修担当者）

- ・ 今年度で2回目の派遣であり昨年度2名、今年度2名を出したが、全体の総括として社内での先輩後輩のコミュニケーションにも寄与すると思う。新人には戻ってから今日やったことを毎日報告してもらっているが、昨年度と今年度の受講者でほぼ同じ内容の日々の報告となっている。社内で1年生、2年生という具合に伝統を培うことができると共に、フォローアップに関してもセクリー（セクションリーダー）的な進め方ができる
- ・ 実業務はVB主体であるが、研修内容に関しては、Cの勉強をしておくことはいいと思う。ただしわずか一ヶ月の中で本当に身につけるのは難しいと思う。アルゴリズムなど、何を学ぶべきかを理解し、現場内での要件定義からの学習につなげられればいいと思う。
- ・ 内容面では強いて言えばオブジェクト指向の学習もできるとなお良い。

3. その他

- ・ 訓練全体として現時点で見ると概ね良いのではないかと。予備知識があれば次のステップにも行ける。
- ・ 技術的な部分も大切であるが、一つのことに向かってチームでやっていくということはとても大切であり、訓練の意義でもあると思う。
- ・ （協会でも従業員交流の場がないことは認識しており、ビジョン委員会などで検討している旨を説明）

対象企業③

日時：2006年9月5日（火） 9：30～10：30

今年度受講生数：2名（全3コース受講・未経験者コース）

出席者（敬称略）：

- ・ 対象企業：代表取締役1名（研修受講者は都合により同席なし）
- ・ MISA：渡辺（エス・ビー・エス）、庄子（NAViS）

1. 研修全体の総括

<ビジネス基盤コースに関して>

- ・ ビジネス基盤コースはしっかりプロが教えている印象である。自社ではプロのように教えることはできない。

<技術系2コースに関して>

- ・ IT技術基盤コースに関して、Aクラス（未経験者コース）であったが、多少クラス内でスキルにバラつきはあったものの全体としては良かったと思う。
- ・ オブジェクト指向コースに関しては、訓練時間の大部分が課題に割かれており、（時間の

制約も大きく) 教えて勉強というサイクルが廻らず実習的要素が強かった印象である。
もう少し教えてもらう側面が強ければよかったと思う。

- ・カリキュラム案内には実習要素が強い旨が伝わっておらず、カリキュラム案内とスケジュールが不一致であると思う。実際的なプログラミング主体の訓練にしてもらったほうが良い。
- ・3月に社内でC言語などを勉強させてから訓練に出したが、クラスの中でレベルの違う受講生もあり、訓練で柔軟に対応してもらっていたこともわかるが前提の差が結構大きかったと思う。

2. 受講料に関して

- ・もう少し安く教育してもらえるといい。来年度は4名~5名の採用を予定しているが、一人当たり40万円弱の負担はかなり大きい。ビジネス基盤コースは受けさせたいと思うが、技術系は価格見合いであり、案内時点で判断しようと思う。
- ・起業前の前職では外部に委託しコンピュータ教育を行っていたが、40人で2ヶ月で数百万円といった感じである。これから比べるとMISA訓練はちょっと高いと思う。
- ・補助金の活用についてももっと案内してもらえると良い。

3. その他

- ・MISA訓練の講師は首都圏講師になっているが、地元企業のエキスパートが教えた方が余計な経費もかからず、安く良い研修ができるのではないか。実際の実務はVBが多く、訓練内容をこなす受講生の負担も大きいとも思う。

対象企業④

日時：2005年9月6日(水) 16:45~17:45

今年度受講生数：2名(全コース・経験者)

出席者：

- ・対象企業：代表取締役1名、取締役1名、受講者2名
- ・MISA：渡辺(エス・ビー・エス)、庄子(NAVIS)

1. 訓練受講の経緯

- ・昨年度までは別の新人研修に出していたが、他のところの教育もやってみよう、ということで今年度MISAに出してみた。
- ・別の新人研修はJavaが主であるが、MISAはC言語であることが大きく異なる。また、MISAは全体的に細かいカリキュラムになっている。

2. 受けさせてみての印象

<ビジネス基盤コース>

- ・ビジネスマナーは問題ない。非常によかったと思う。
- ・7日間の中では「情報化企画」研修の時間が長すぎであり、工夫が必要である。

<IT 技術基盤コース（経験者）>

- ・クラスの中には未経験者もおり、正直暇で経験者には楽だった。
- ・講師も質問に対しての対応が悪く、教えるのが下手。実習に関しても、完成しても正解がなく、クラスのレベルの差があったので進む人は進むという感じであったと聞いている。
- ・他社とのコミュニケーション面はOKであると思う。
- ・時間の問題もある。（当社社員のスキルに比して）時間が余ったということなので、もっと課題を与えてガッチリと負荷をかけてやった方がいい。
- ・実習はチーム分けで行ったようであるが、チームの中で出来る人がいると偏ってしまう。もちろん、教育にはいろいろなレベルの人がいることは理解できるが、研修内容が実践につながるかどうかは別としてもっと厳しい教育を期待したいと思う。
- ・一人一人のレベルに合わせて補助講師を入れるなど工夫すると共に、進捗テストなどをカリキュラムに入れてもっと勉強をやらせるカリキュラムにすべきである。頭を使う場面をもっと多くしてもらいたい。

3. 受講者の感想

- ・良かった点はマナー研修である。電話応対など大変役に立っている。プレゼンテーションの基本を学べた点も良かった。（社長の話にもあった通り）情報化企画は長すぎであり横文字ばかり次々出て来るだけなので、不要である。
- ・技術系コースの経験者コースは（社長の話にもあった通り）時間をもったいない。各グループ共に取り組んだ課題は異なるが、発表内容は同じである。受講者のレベルがあまりに違いすぎたので一緒にしてもらいたい。
- ・技術系コースの先生（浅野講師）については、教科書をしっかりやるというよりは課題演習の時間が多すぎる。また、投げるような言葉遣い、特に演習が終わった際に「確認する方はして下さい」という言葉が非常につらかった。確認したくない人はしなくて良い、とも取れ、確認しない場合の時間の使い方など非常に困った。また、せっかく演習したプログラミングをしっかりと評価してもらえる、といったようなこともなく放っておかれた。
- ・オブジェクト指向に関しては、同じカリキュラムを実施しているはずなのに隣のクラスとの課題の内容が異なっており、隣のクラスの方がドキュメントなどしっかり整っている感じだったので、どうしてこんなに違うのだろう、とっていた。

対象企業⑤

日 時：2006年9月8日（金） 11：00～11：30

今年度受講生数：4名（「ビジネス基盤」のみ受講）

出席者：

- ・対象企業：代表取締役社長1名、研修受講者2名
- ・MISA：佐々木（東北システムズ・サポート）、庄子（NAVIS）、原田（MISA事務局）

1. 受講者の感想

- ・ 1週間の訓練の中でマナー研修での電話応対などは大変役に立っている。現在営業職であることもあり、プレゼンテーションの内容なども学習できて良かったと思う。
- ・ 現在営業の仕事をしていて提案書の作成などの機会も多い。訓練ではパソコンを使ってお客様の立場に立ったパワーポイントの提案資料を作成する仕方などの内容もあればもっと良かったと思う。プレゼンテーションに関する内容は1日ということもあり、さっと終わってしまったのももう少し深く突っ込んでもよかったと思う。
- ・ 全般にインプットする内容は多かったが、アウトプットの機会がもっとあれば良かったと思う。もう少しお客様の立場に立って考えるなどの仕事で役立つ内容を考える時間があればよかった。
- ・ 実習を通じてメールの使い方や報告書の書き方などももっと学習できると良い。
- ・ 最も有効だった研修はやはりマナー研修である。あいさつなどを一つとっても習うのと習わないのではかなり違う。一度習うと慣れるため、すぐに役に立つ。電話応対も含めインプットも早かったがアウトプットも早かった。戸惑ったときにどうするか、なども含めて習えて、気持ちにも余裕が持てた。
- ・ グループでのコミュニケーションはよく取れたと思う。コミュニケーションを取る機会や時間があつたのも良かった。
- ・ 現在開発業務に従事しているが、IT業界に入る前に用語の調べ方や資格、レベルなどを知り、会社の求めるスキルとの二本立てで考えられると良いと思う。

2. 受けさせてみての印象

- ・ 内容的には良かったと思う。昨年度ヒアリングの成果も反映され、改善点（として指摘した事項）も改善されている。
- ・ マナー研修をはじめとして安心感もある内容であると思う。
- ・ 当社では技術系に限らない採用をしている。今年度の受講社員はメールなどのPC操作も

含めて不十分な点もあったので研修の中で PC 演習を入れ、教えあったりメールで報告するなどやって覚えるという工夫があればよかったと思う。

- 内容に関しては、受講社員の話にもあったように提案書書きの内容が含まれるともっとよかった。例えば大学教授による図解表現などを取り入れ、自分のライフスタイルを図で表すなどの演習をいれ、アウトプット型を目指すともっと良い研修になるのではないか。
- 技術系の研修でもそうであるが、問題発生した時にどうするかが重要であると思う。分からなくとも事前に情報があれば、どうするか分かる。こうしたアウトプットの訓練を重視すべきと思う。

3. その他

- 当社では内定者に対して 9 月から半年、2 週間に 1 回 3 時間の研修で合計 10 回位、業界知識や商品知識といった研修を行っている。
- (昨年度技術系研修に出して今年度出さなかった理由に関しては) 当社は技術で食べていこうとは思っていないからである。高度な技術というよりはビジネス/サービスの方が重要である。その意味で「ビジネス基盤」コースはもっと長い期間にしても良いと思う。
- 来年度は 3 人程度の採用を計画している。

対象企業⑥

日 時：2005 年 9 月 9 日（金） 13：30～14：30

会 場：同社会議室（青葉区中央）

今年度受講生数：6 名（全 3 コース受講・未経験者）

出席者：

- 対象企業：取締役 1 名、研修担当者 1 名、受講者 2 名
- MISA：佐々木（東北システムズ・サポート）、庄子（NAVIS）、原田（事務局）

1. 受講者の感想

- グループ開発課題により、開発の大変さ、協力の必要性、意思疎通の大切さなどを習得できたと思う。
- 開発課題の成果物に関しては、準備不足や時間の制約により当初思っていた通りには行かなかった。もう少し時間があればもっといいのにできたという思いはある。
- 現在の業務は COBOL であり、研修で学習した内容は直接活用していないが、それでも DHTML などを利用する機会もあり、PHP や Web アプリケーション作成などは役に立っている。
- 交流会の企画は大変よかったと思う。

- ・ ビジネス基盤コースでは特に電話対応が役立っている。開発演習に関しては今考えると甘かったところもあり、放課後にもっと残ってやっていたらよかったという思いは強い。
- ・ オブジェクト開発コースでのグループ演習に関してはメンバーが 3 人だったこともあり、他のグループの 4 人構成と同じ課題を 3 人でこなすのはきつかった。(スキルを判断してグループ分けを訓練事務局で行ったが) もう少しスキルを的確に把握することが課題ではないか。
- ・ 内容面では特に設計書の作成が戸惑ったが、講師が 1 人だったため、質問などで多少時間待ちが生じた。講師 2 人で補助者がいればなお良かったと思う。
- ・ オブジェクト開発コースから参加する受講者がいることもあり、C に関する内容を若干聞いてから Java に入るカリキュラムとなっている。C と変わらない Java の基礎はゆっくりした進捗であるのに対し、後半は徐々に難しくなるにも係らずペースが速くなっていったので、ここは改善願いたい。
- ・ 実務に入って直接的に役立ったものは電話対応であるが、技術系研修はグループで一つのものをつくる、という経験そのものが役に立っていると思う。

2. 受けさせてみての印象

- ・ 電話対応などビジネスマナーは例年通り非常に良い。技術系に関してはプレゼンテーションを各コース 1 回、合計 2 回実施したことやチームワークや役割を考えて演習を行ったところは良かったと思う。ただ演習期間が短い(限られる)ため完成度がちょっと低く、受講生のストレスが若干残っている印象である。
- ・ 交流会企画は大変良かったと思う。MISA の地元同業他社の社員と交流できる機会是有意義である。
- ・ (受講後の印象として) 今年を受講者は昨年度に比して特にビジネスマナーの質が格段に良い印象である。カリキュラム上何か工夫や変更を行ったのではないか?
(→カリキュラム上は変更ないが、技術系研修を含め今年は特に他社の受講者の質も高く、交流やグループワークなどの中から身につけていったと思われる旨を説明)

3. その他

- ・ 今年を受講者は全員汎用機部門に配属である。MISA 研修受講後に自社で COBOL の研修を行った後配属している。
- ・ MISA 研修を含めた新人研修のスタイルは当社としては既に出来上がっていると思う。受講者が実務で使う技術は確かに COBOL であるが、開発環境に捉われず技術者としての実務能力を身につけることを主眼とした訓練として位置づけられる。

4. 地域での IT 訓練に対する提言、協会事業に対する提言など

- ・ 教育投資は予算を取っても時間がなく執行することが難しい。ITSS に標準を当てて、プ

ロマネやアプリケーションスペシャリストなどエントリーレベルから高度までの体系の中での教育を考えていく必要がある。

- ・ 人事制度も（ITSS 準拠に）変化し死活問題でもある。特にエントリーレベルを上げていく画期的な人材育成ができると良いと思う。
- ・ ITSS と情報処理技術者試験の一体化、IT 企業の格付けに対する備えが必要で、地に足ついた事業が求められる。例えば地域での評価基準を明確にした上で、（大手研修機関のスキルアセスメントシステムなどの）既存のスキル診断とも相乗りにできるような評価システムを MISA が提供するなどといったことは有益であると思われ、MISA に加入するメリットにもなるのではないかとと思われる。
- ・ スキル/教育、セキュリティの両輪での対応が必要ではないか。例えば地域で P マーク（プライバシーマーク）を安価に取れる仕組みだとか、メンタルヘルスのカウンセラーの MISA での契約や安価なサービス提供など着実に地域 IT 業界全体の底上げにつながる活動を強化していくのが望まれるのではないか。

対象企業⑦

日 時：2005 年 9 月 8 日（金） 15：00～16：00

今年度受講生数：8 名（「IT 技術基盤」経験者のみ）

出席者：

- ・ 対象企業：マネジャー1 名、研修担当者 1 名、受講者 2 名
- ・ MISA：佐々木（東北システムズ・サポート）、庄子（NAVIS）、原田（事務局）

1. 受講者の感想

- ・ 経験者コースということで、文系出身の私にはなかなかついていくのが難しく、講義進度もちょっと速かった。UNIX で演習したが、UNIX に慣れるまで大変だった。
- ・ 内容は豊富で内容も濃かったが、時間に比して多かったとも思う。
- ・ 現在の実務では開発をやっているが、言語、OS、開発環境などの基本的な技術を一回経験しているので分かった。Windows しか使っていないが、UNIX の知識も学習したので理解ができています。カリキュラムの後半での SQL や DB は訓練で初めて学習した内容であり、技術内容も難しくなるので最後の方は苦労したと思う。
- ・ 演習などでどうしたらいいか分からないときもあったので、最初は演習時間を少なくして入り口（導入）の時間もあつたらなお良かったと思う。
- ・ コミュニケーション面は役に立った。他の会社の方と一つの課題を作成する経験は貴重だったと思う。（ビジネス基盤コースに参加していないので）最初はやりにくかったがす

ぐにメンバーとも打ち解け、大丈夫であった。グループ演習の完成度に関しては、今から考えると特に実装面での完成度を上げたい（いじりたい）と思う。

- ・研修環境面では室内が寒かったことが少し気になった。

2. 受けさせてみての印象

- ・ 全体的に技術面で原理的な面から網羅されており、良いと思う。MISA 訓練のような幅広い内容を網羅した訓練を自社内部でやろうとした場合、内部的な負担がかなり大きいと思う。
- ・ （MISA 訓練とは別に NAViS で対応した）Java 研修でもコーディングなどを含めてある程度の基礎が出来上がったものを引き継いで自社の QMS やテスト標準などを教育できたため、新人研修としての当初の目的は十分達成できたと総括している。
- ・ 研修の内容は実際には C や UNIX、アルゴリズムなどが中心であるが、期間に比して内容や習得技術が濃く、成果も高いと思う。受講者各自が自分の役割を見つけて乗り切ったといえる。
- ・ 時期的に参加させる苦労はあった。当社独自の研修期間と技術研修の期間がぶつかっており、間に社内研修を入れることができないなど使い勝手の面では今後も含め検討が必要である。募集時期が 1 月締切というのも当社にとっては早すぎる。MISA 研修以外に他の訓練の入れており、その日程が決定する時期がもっと遅いというのが理由である。
- ・ ブログで毎日訓練の様子を報告いただけるのは良かったと思う。
- ・ 今回は参加申込が遅く、（定員の関係上）理系・文系、営業職を含め全員を経験者コースに参加させたが、結果的に同じ内容を新人全員で共有し力になって帰ってきたのでこれはこれでよかったと思う。

3. その他

- ・ 研修の振り返りとして、会社案内を最後に新人全員で作らせたが、そのときの内容の多くが MISA の新人研修であった。受講生にとってはかなり印象に残っていることがわかる。

<参考：今年度（2006）カリキュラム>

社団法人宮城県情報サービス産業協会

訓練科名：ビジネス基盤養成Ⅰ（7日間）

日程		4月4日（火）	4月5日（水）	4月6日（木）	4月7日（金）
		ビジネスマナー	ビジネスマナー	ビジネススキル （文書・情報活用）	ビジネススキル （チームワーク）
日程	4月10日（月）	4月11日（火）	4月12日（水）		
	プレゼンテーションと自己表現	情報化の背景と情報化企画	情報化の背景と情報化企画		

訓練科名：ビジネス基盤養成Ⅱ（7日間）

日程		4月4日（火）	4月5日（水）	4月6日（木）	4月7日（金）
		ビジネスマナー	ビジネスマナー	情報化の背景と情報化企画	情報化の背景と情報化企画
日程	4月10日（月）	4月11日（火）	4月12日（水）		
	ビジネススキル （文書・情報活用）	ビジネススキル （チームワーク）	プレゼンテーションと自己表現		

訓練科名：IT技術基盤Ⅰ（入門コース）（17日間）

日程				4月13日（木）	4月14日（金）
				プログラム開発 プロセス	アルゴリズムと C言語
日程	4月17日（月）	4月18日（火）	4月19日（水）	4月20日（木）	4月21日（金）
	アルゴリズムと C言語	アルゴリズムと C言語	アルゴリズムと C言語	アルゴリズムと C言語	アルゴリズムと C言語
日程	4月24日（月）	4月25日（火）	4月26日（水）	4月27日（木）	4月28日（金）
	アルゴリズムと C言語	TCP/IP ネットワーク	Web 開発演習 （PHP&Perl）	Web 開発演習 （PHP&Perl）	RDB 入門／課題 中間レビュー
日程	5月8日（月）	5月9日（火）	5月10日（水）	5月11日（木）	5月12日（金）
	DB 操作と SQL 言語	DB 操作と SQL 言語	DB 操作と SQL 言語	予備日・課題プログラム 総仕上げ	課題プログラム 総仕上げ・発表

訓練科名：IT技術基盤Ⅱ（アドバンスドコース）（17日間）

日程				4月13日（木）	4月14日（金）
				プログラム開発 プロセス	アルゴリズムと C言語
日程	4月17日（月）	4月18日（火）	4月19日（水）	4月20日（木）	4月21日（金）
	アルゴリズムと C言語	アルゴリズムと C言語	アルゴリズムと C言語	UNIX/TCP/IP ネットワーク	UNIX/TCP/IP ネットワーク

日程	4月24日(月)	4月25日(火)	4月26日(水)	4月27日(木)	4月28日(金)
	Web 開発演習 (PHP&Perl)	Web 開発演習 (PHP&Perl)	課題プログラム 中間レビュー	RDBとSQL言 語	データベース設 計

日程	5月8日(月)	5月9日(火)	5月10日(水)	5月11日(木)	5月12日(金)
	データベース開 発	Web/DB連携プ ログラム	予備日・課題プロ グラム総仕上げ	課題プログラム 総仕上げ	課題プログラム 発表

訓練科名：オブジェクト指向開発Ⅰ（15日間）

日程	5月15日(月)	5月16日(火)	5月17日(水)	5月18日(木)	5月19日(金)
	UML オブジェク ト指向分析設計	UML オブジェク ト指向分析設計	UML オブジェク ト指向分析設計	Java プログラミ ング	Java プログラミ ング

(5月19日(金)：業界セミナー 現役SEによる討論)

日程	5月22日(月)	5月23日(火)	5月24日(水)	5月25日(木)	5月26日(金)
	Java プログラミ ング	Java プログラミ ング	課題プログラ ム・中間レビュー (クラス合同)	Servlet	Servlet

日程	5月29日(月)	5月30日(火)	5月31日(水)	6月1日(木)	6月2日(金)
	JDBC	JSP	JSP	課題プログラ ム・総仕上げ	課題プログラム 発表(クラス合同)

訓練科名：オブジェクト指向開発Ⅱ（15日間）

日程	5月15日(月)	5月16日(火)	5月17日(水)	5月18日(木)	5月19日(金)
	UML オブジェク ト指向分析設計	UML オブジェク ト指向分析設計	UML オブジェク ト指向分析設計	Java プログラミ ング	Java プログラミ ング

(5月19日(金)：業界セミナー 現役SEによる討論)

日程	5月22日(月)	5月23日(火)	5月24日(水)	5月25日(木)	5月26日(金)
	Java プログラミ ング	Java プログラミ ング	課題プログラ ム・中間レビュー (クラス合同)	Servlet	Servlet

日程	5月29日(月)	5月30日(火)	5月31日(水)	6月1日(木)	6月2日(金)
	JDBC	JSP	JSP	課題プログラ ム・総仕上げ	課題プログラム 発表(クラス合同)

<ゲストセミナー(所属等は実施当時のもの)>

ゲストセミナーⅠ 4/7(金) 16:30~17:30	「IT業界の動向と技術者に求められるもの」 MISA 副会長 松川 満 氏(東北NSソリューションズ)
ゲストセミナーⅡ 4/21(金) 16:30~17:30	「信頼を高め競争を勝ち抜くために」 (株)ビッツ 東北事業所長 加賀谷龍一 氏 (※人材・技術委員会副委員長)
ゲストセミナーⅢ 5/19(金) 16:30~17:30	「システムエンジニアの仕事」 (株)アート・システム マネジャー 荒井勝広 氏